

## 西濃農林事務所の普及活動状況

平成28年4月27日現在

### 今月の重点活動

#### ■新規就農者 岐阜県就農支援センター入所式、第1回 西濃地域(海津)就農支援会議

西濃管内では新規就農者に対する支援活動が活発に行われている。

海津市においては4月11日に、県就農支援センター(海津市)で、冬春トマト研修生第3期生4名の入所式が開催された。式の後、第1回目の就農支援会議が行われ、農業普及課を含め、関係機関と連携し、研修生の現在の状況から、次年度における就農に向けて、課題・問題点を解決しつつ、支援を進めていくことが確認された。

また、大垣市では4月12日に、新規就農をめざす研修希望者(男性:30歳)と、研修受け入れ事業者に対し、大垣市、農業振興課、農業普及課とで打ち合わせを行った。

研修希望者は、「名水わさび」にて秋から研修に入り、将来は大垣市内で就農を希望しているため、各種支援事業の手続スケジュール等について調整を行った。今後、研修希望者本人と受け入れ研修先の「名水わさび」に対し、あすなろ農業塾や青年就農給付金等、関連の事業手続を進めて行く予定である。



【入所式：激励のことば】

### 多様な担い手づくり

#### ■営農組合・大垣市 (農)大垣南 水田農業担い手の生産技術と経営改善支援

(農)大垣南は4月9日に上半期役員会を開催し、今年の生産事業計画について協議した。取組み品目は主食用米、飼料用米、飼料用稲、水稻苗等で、それぞれの作付け規模や使用資材などについて打ち合わせを行った。農業普及課からは資材の投入量や作業内容、作業時間等を一筆単位で管理し、データを蓄積して、次年度以降の経費削減や作業効率向上の参考とするよう提案した。

#### ■いちじく 新規栽培者

農業普及課が農協広報誌でいちじく栽培を紹介したところ、海津市南濃町で2人の定年帰農者がいちじく栽培を開始することとなり、農業普及課で栽培技術支援を行った。面積は現在約10aだが、将来的にはさらに拡大する予定である。

ほ場の場所は鳥獣害の発生が予想されるので、今後、これらの対策を検討していく必要があるとともに、栽培面積の拡大に際しては水田地帯などの鳥獣害の少ない地区を視野に入れることを助言した。

### 売れるブランドづくり

#### ■小麦 「さとのそら」への品種切替え支援

西濃管内での28年産の小麦栽培は、「農林61号」と「イワイノダイチ」の2品種である。「農林61号」は29年産から全面的に「さとのそら」に切り替わることになっているが、養老町では他市町に先駆けて28年産から「さとのそら」に切り替えて作付けを行っている。

28年産小麦は管内全体で「さとのそら」は出穂が7～10日早くなっており、「イワイノダイチ」「農林61号」では昨年の試験栽培より10～14日早い出穂を確認した。

農業普及課では各産地とも出穂が早くなっていることに対応して、赤かび病の防除の日程を、1回目、2回目ともにそれぞれの地域の出穂状況に合わせて早めるように生産者等に啓発した。

### ■きゅうり **きゅうりの出荷実績、病虫害状況等**

28年産冬春きゅうりの販売実績(対前年)は、4月上旬までの数量:116% 金額:110% 単価:95%と順調な状況であり、現在の日量は2,000 c/s(5kg箱)程度で推移している。

4月に入ってから曇雨天の日が多くなり、例年より少なめであるが、うどんこ病、べと病等が散見されるようになってきた。また、屋外の害虫は例年より早く増加しており、農業普及課では、アザミウマ等の侵入害虫の発生に注意すること、これに伴う薬剤散布について、防除回数や薬剤の適正使用について注意すること等、啓発に努めている。

### ■甘長ピーマン **天敵を活用した甘長ピーマンの害虫防除技術の実証・普及**

4月15日に海津市の甘長ピーマンほ場において、新技術導入普及支援事業による展示ほ場を設置した。

展示内容は、赤色防虫ネットを設置した施設内において害虫アブラムシを捕食する「ギフアブラバチ」「コレマンアブラバチ」を放飼することと、害虫アザミウマを捕食する「ヒメハナカメム類」の定着を図ることにより、防除回数の削減を図るものである。併せて、薬剤抵抗性が発現した害虫に対しても防除対策、省力化を図ることが可能である。農業普及課は農業技術センター環境部の協力を得ながら現地での実証・普及を行う。

## 住みよい農村づくり

### ■関ヶ原町玉地区 **「<sup>たまくらべ</sup>玉倉部そばの会」プレオープン：地元産そばを使った地域おこし**

関ヶ原町玉地区において、県・町が進める「関ヶ原古戦場グランドデザイン」推進に合わせ、地元有志が地元産そばを使い、地元の遊休飲食施設(関ヶ原鍾乳洞入口食堂)で販売する「地域おこし活動」を開始した。4月17日にプレオープンを行い、農林事務所からも2名がオープンイベントに参加した。

使用するそばは、地元の営農組合「関ヶ原北部営農組合」が生産するが、この活動を契機に法人化を進める動きがあり、農業普及課としては当該組織の法人化に向けた支援活動を行っていく。



【そば提供施設外観】



【既存調理場を改修】



【提供調理例】